

普及活動情勢報告（平成28年5月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

J A 四万十キュウリ部会「環境制御勉強会」を開催



5月13日、J A 四万十キュウリ部会員3名と関係機関4名で、担い手育成センターのキュウリハウスで環境制御技術勉強会を開催しました。

ハウス内でのキュウリの生育状況を確認しながら、現在までの収量、環境制御方法等の説明を受けた後、環境制御下での品種特性や肥培管理の特徴、局所施用技術、湿度制御等の質疑が交わされました。普及所は、28園芸年度に行った生育調査を基に炭酸ガス施用効果の事例紹介を行いました。

部会では、来月も同様の勉強会を開催する予定です。今後も関係機関と連携して、環境制御技術の推進に取り組んでいきます。

J A 四万十経営分析・診断個別説明会を実施しました



5月12、13日、J A 四万十興津支所において、経営分析・診断結果の個別説明会を開催し、ミョウガ・ピーマン農家30戸が参加しました。

普及所はJ A 四万十と協力し、生育調査結果の取りまとめや決算書に基づく経営分析を行い、説明会の資料を作成しました。

当日は資料をもとに、現状の課題や今後の改善策、個別目標について共有しました。参加した農家からは、新たな設備投資や作型について検討したいとの声が聞かれました。

普及所は関係機関と連携し、28園芸年度の目標達成に向けて定期的な巡回を行い、栽培面、経営面からの支援を実施していきます。

栗技術チーム会を開催



5月10日、四万十の栗再生プロジェクト推進協議会の下部組織である栗技術チーム会を開催しました。本チーム会は、技術指導員、営農指導員、普及指導員からなり、北幡地域（四万十町大正、十和、四万十市西土佐）の生産者の技術力の向上による「四万十の栗」の生産量の増加と高品質化を目指しています。

今回は、本チーム会のあり方や、今年度の活動内容、実証ほの設置などを協議すると共に、優良せんだん園地の生育状況を確認しました。今後は、開花期におけるせんだん効果の確認を行います。

普及所は、関係機関の調整や円滑な会運営と共に、指導者の技術力向上と共有の場づくりに取り組んでいきます。

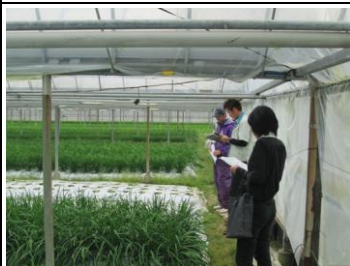
J A高知はた大正支所園芸部総会が開催されました



J A高知はた大正支所園芸部総会が5月16日に旧大正支所で開催され、スプレーマム、シシトウなど8品目の部会の役員10名により、平成27年度活動実績と平成28年度活動計画が承認されました。園芸部長からは、今年度、シシトウ部会が園芸連認証のエコシステム栽培を開始することや、異物混入防止に力を入れて取り組んでいくことが報告されました。

普及所は、大正地区のアザミウマの発消長の調査結果を基にした防除対策の情報提供や、農薬安全使用についての啓発を行いました。今後も、J Aと連携して園芸部会活動を支援していきます。

レベルアップを目指して、ニラ農家の巡回面談



5月6, 9, 10日、ニラの新規農家やレベルアップを目指す農家を対象に、JA営農指導員と普及指導員が農家のほ場を巡回して面談を行いました。

面談では、月別の目標収量に対する実績、今後の定植予定時期と一緒に確認し、育苗管理や病虫害対策などについての助言を行いました。

普及所は、今後も農家の目標収量、所得の達成に向けて、関係機関と連携して地域の担い手を支援していきます。

J A四万十厳選にこまる育苗現地検討会の開催



5月10日、育苗管理についての現地検討会を開催し、6名の生産者が参加しました。

普及所は、J Aと共には場で苗の生育や管理の状況を確認した上で、今後の育苗管理や適期移植についての指導を行いました。

生産者からは、「にこまるは被覆資材を早めに除けて徒長させないことが大切」などの意見が出ました。

今後も普及所では、四万十町産米の高品質生産に向け、J Aと協力し栽培技術等を支援していきます。